

工業教育の芽生え

実業教育としての工業学校

幕末、長州五傑の一人としてイギリスに密航した山尾庸三は、帰国後、新政府で工学に関する重職を歴任し、日本の近代工業の確立に尽力した。明治4(1871)年、山尾の提唱により工学寮が設立され、工業教育による人材育成にも力がそそがれた。

山口県では藩政期以来、農業を中心とする産業構造が続いていたが、明治10年代に入り、県の勸業施策として製茶・製紙などの諸産業が推進される一方、県内各地で新事業が興り、新産業の開発と育成の素地が築かれた。

明治30年代に入ると、国内産業の飛躍的な発展から工業教育を含め、実業従事者の組織的な養成が必要とされた。明治32年2月、文部省は実業学校令を公布し、工業学校・農業学校・商業学校・実業補習学校を法制上の実業学校とした。

これにともない、県は明治36年7月、光市室積に県立工業学校を設置し、造船及び機械工業従事者の養成を目指した。明治37年、日露戦争が勃発し、県は財政見直しのため工業学校の縮小を図ったが、地元を受入産業がなく卒業生の多くが他県に就職していたことから、大正3(1914)年には廃校となり、その施設は第二師範学校に転用された。

県立工業学校の再興

第一次世界大戦後の産業の発達により、実業教育の必要性はさらに高まり、大正9年には実業学校令の改正が行われた。

この頃、山口県でも一旦は廃校となったものの、郷土の産業人の大きな支援を受け、県立工業学校が再興された。

大正8年、県は工業学校の設置を決議した。これをうけて宇部では宇部共同義会が寄附金を募り、設立に必要な30万円を県に寄附した。これにより大正10年、山口県立宇部工業学校が設立された。宇部共同義会の期待に応えるべく、すぐれた技術者を育成するため、入学は非常に狭き門であり、卒業も難易度は相当に高かったという。

一方、下松では久原房之助が大規模工場建設を計画していたが、戦争の影響を受け頓挫していた。そのため、地元への謝罪と工業技術者の育成を意図して、大正8年、久原は工業学校設立費用として33万円を寄附した。これにより、大正10年、山口県立下松工業学校が設立された。



開校当時の下松工業学校
(『久原房之助』より)

私立の工業学校 宇部徒弟学校

大正3(1914)年、室積の県立工業学校が廃校となった年、工業都市として発展してきた宇部で、渡辺裕策が、経営する炭鉱の機械部門である新川鉄工所を創業し、同時に下級工業技術者の養成を目的として私立の宇部徒弟学校を設立した。

学校の設立資金と運営費は全て渡辺が負担した。また、生徒の授業料は一切免除、学習に必要な書籍・器具類は貸与し、実習手当も支給した。寄宿舎も設置されたため、入所生の負担は食費10円のみであった。その後、宇部工業学校と改称するが、大正10年の県立宇部工業学校設立に伴い、長門工業学校と改称した。



渡辺祐策

(『素行渡辺祐策』より)

宇部共同義会と渡辺祐策

山口大学工学部のある宇部は、現在は工業都市として知られているが、その発展の礎を築いたのが、村民で組織された宇部共同義会と渡辺祐策である。

宇部共同義会は明治19(1886)年に創設された。当時の宇部は人口6千人の一寒村にすぎなかった。宇部で石炭産業が盛んになったのは、維新後、萩藩の家老だった福原家が、他村に渡った採掘権を宇部のために買い戻したことに始まる。宇部の人々は権利を譲り受けて共同で管理する宇部共同義会を設立、各炭鉱の経営は、「宇部式匿名組合」と言われる独特のシステムで行われた。これは、一人の頭取に絶対的な信頼を置き、権限を与え、給料は全員同額で、食事も炭鉱側が賄うというものである。

その後、石炭の需要の高まりにより共同義会は、相当な財を蓄える財団(大正12年に法人化)に成長し、郷土の公共施設・社会福祉・教育文化の3つを主な対象として巨額の寄附活動を行った。中でも教育には特に力を入れ、各地に新設された小学校の講堂や全国初となる村立の中学校・村立宇部中学校の建設、県立宇部工業学校の誘致などに、その財を投じた。また、昭和14年には、山口大学工学部の前身である宇部高等工業学校創設に際し、常盤台の敷地3万8千坪を建設用地として宇部市から国への寄贈という形で用意した。宇部共同義会は、昭和28(1953)年、宇部市立図書館建設費に全財産を寄付し、その歴史に幕を閉じた。

渡辺祐策は、宇部共同義会の中で最も成長した沖ノ山炭鉱の頭取を務めた人物である。炭鉱経営を軌道に乗せると「埋蔵量に限りのある石炭を掘り尽くす前に、その富を無限の技術に転換しなければならない」との理念から、炭鉱経営で得た資金を元に、宇部新川鉄工所、宇部セメント製造、宇部窒素工業(これら3社と沖ノ山炭鉱が合併して宇部興産株式会社となる)、宇部電気鉄道(現在の JR 小野田線)などを次々と起業し、教育機関や上水道、港湾等の社会基盤の整備にも尽力し、宇部村発展に大きく貢献した。